



# 秋田市の子宮頸がん検診を受けるかたへ

20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう！

## 子宮頸がん検診の流れ

子宮頸がん検診（子宮頸部の細胞診）※希望者に超音波検査も実施  
約6週間後、秋田市から結果を自宅に送付します



精密検査不要

子宮頸がんの中には急速に進行するものもあります。今後も、**定期的に検診**を受けましょう。  
■ 20～39歳のかたは、毎年  
■ 40歳以上のかたは、2年に1回(偶数歳)

保険診療です

要精密検査

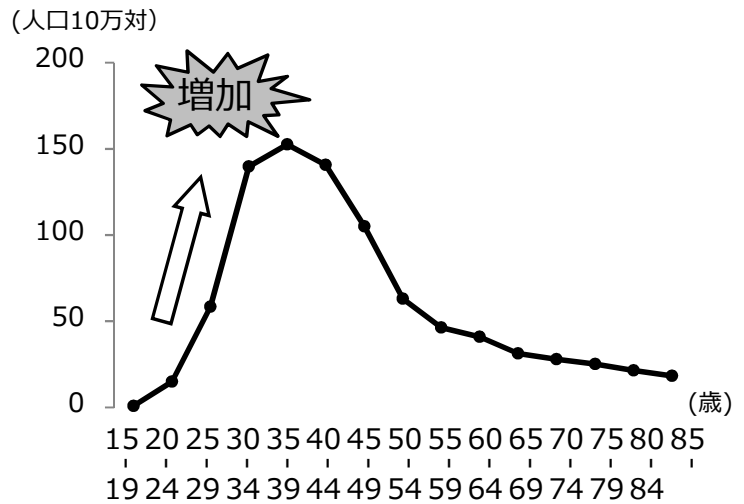
**自覚症状がなくても精密検査を必ず受けましょう**  
精密検査は、コルポスコープ（腔拡大鏡）下の細胞診や組織診、HPV（ヒトパピローマウイルス）検査などを組み合わせて実施します。  
なお、精度管理のため、精密検査結果は秋田市と子宮頸がん検診を受診した医療機関にも情報が共有されます。

## 子宮頸がんは、若い女性に増加！

日本の女性では罹患する人が比較的多く、年間約1万人の女性が子宮頸がんになっています。また、年間約3,000人が子宮頸がんで亡くなっています。

子宮頸がんの罹患率は、20歳代前半から上昇し始め、25歳以降は急激に上昇し、30歳代でピークに達します。

初期の子宮頸がんは、無症状ですが早期発見できればほぼ100%完治します。



【子宮頸がんの年齢階級別罹患率（令和5年）】

参考：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）

## 健康な 今こそ受けよう がん検診！



詳しくは、秋田市HP「子宮頸がん検診について」をチェック

## 予防のポイント

HPVワクチン接種と定期的な子宮頸がん検診のダブルの対策が最も効果があります



### HPV（子宮頸がん予防）ワクチン接種

#### ○子宮頸がんの主な原因

「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の持続的な感染です。HPVは、性交経験者であれば誰でも感染し得るウイルスです。免疫力で自然に排除されることが多いですが、発がん性の高いHPVの感染が長期化すると、子宮頸がんを発症する可能性があります。

#### ○HPVワクチンは定期予防接種（無料）

対象年齢は12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にいる女子（小学校6年～高校1年相当）

#### ○HPVワクチン効果

接種することで**免疫を作る**ことができ、**HPVの感染を防ぐ**ことができます。

①100～200種類以上の型があるHPVのうち、子宮頸がん等の原因となるHPV16型、HPV18型等の感染を防ぎます。

②前がん病変が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。



### 日常生活で気をつけるがん予防のポイント

- ①禁煙すること
- ②飲酒をひかえること
- ③バランスの良い食事をとること
- ④活発に身体を動かすこと
- ⑤適正な体形を維持すること
- ⑥感染を予防すること



特に喫煙により、  
子宮頸がんになるリスクが上昇します  
**たばこを吸わないように**しましょう

出典：国立がん研究センターがん情報サービス



### こんな症状に要注意！

- 月経中でないときに出血がある
- 性交渉時の出血などの不正性器出血
- 茶色や褐色のいつもと違うおりものが増える
- 下腹部および腰の痛み、性交中の痛みなど

子宮頸がん検診で「異常なし」であっても、左記のような症状がある場合には、次回の検診を待たずに早めに医療機関で診察を受けてください。



#### 子宮頸がん検診の有効性等について

子宮頸がん検診では、細胞を調べることにより、がんになる手前の状態（前がん病変）で発見が可能です。自覚症状がなくても定期的に検診を受けることが重要です。

子宮頸がん検診（細胞診）は、死亡率の減少効果があると国が認めている有効な検診ですが、必ずがんが発見できるわけではありません。また、がんでないのに「要精密検査」となる場合もあります。

厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」より